

南海トラフ地震臨時情報（調査終了）について

昨日（13日）23時45分に南海トラフ地震臨時情報（調査終了）を発表しました。その内容について別添のとおりお知らせいたします。

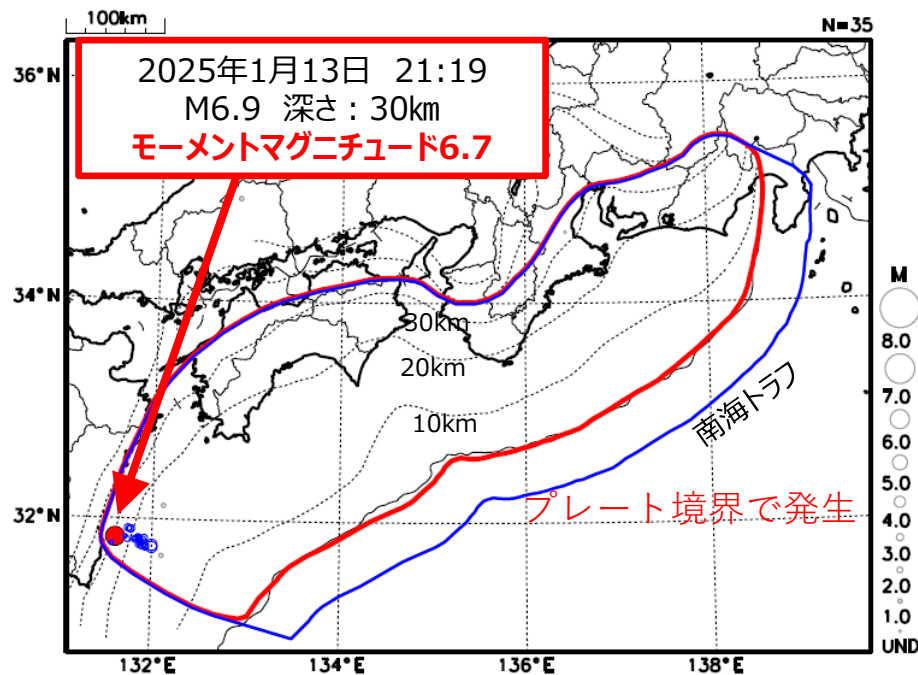
問合せ先：地震火山部 地震火山技術・調査課 大規模地震調査室
電話：03-3434-9040

南海トラフ地震臨時情報（調査終了）を発表

南海トラフ地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる現象ではありませんでした。

ただし、いつ地震が発生してもおかしくないことに留意し、日頃からの地震への備えを確実に実施しておくことが重要です。

今回の地震の発生場所



- ・赤線は想定震源域、青線は南海トラフ地震臨時情報発表に係る地震活動の監視領域
- ・黒点線は、フィリピン海プレート上面の深さ

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるもので、地震発生直後に地震波の最大振幅から計算し津波警報等や地震情報の発表に用いるマグニチュードとは異なります。

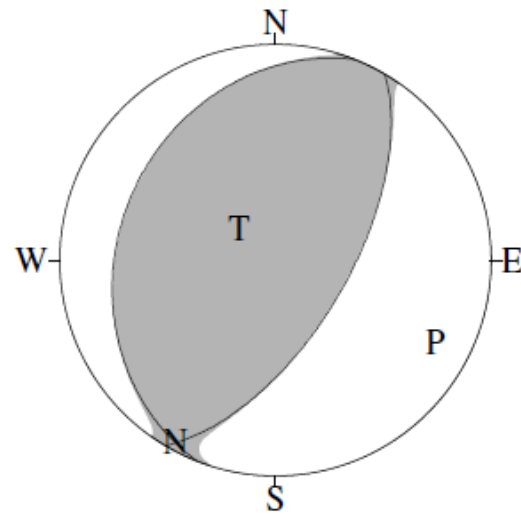
発震機構解

01132119

西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

[CMT解]

Mw=6.7



下半球等積投影法で描画
P：圧力軸の方向
T：張力軸の方向

セントロイドの位置

北緯 31度44分

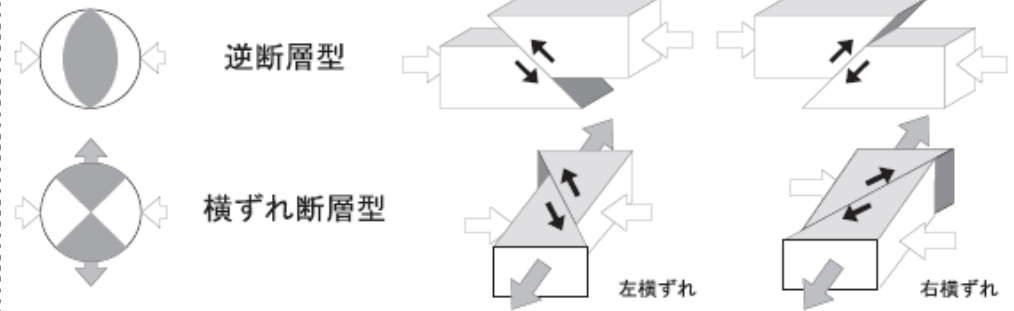
東経 131度40分

深さ 約35km

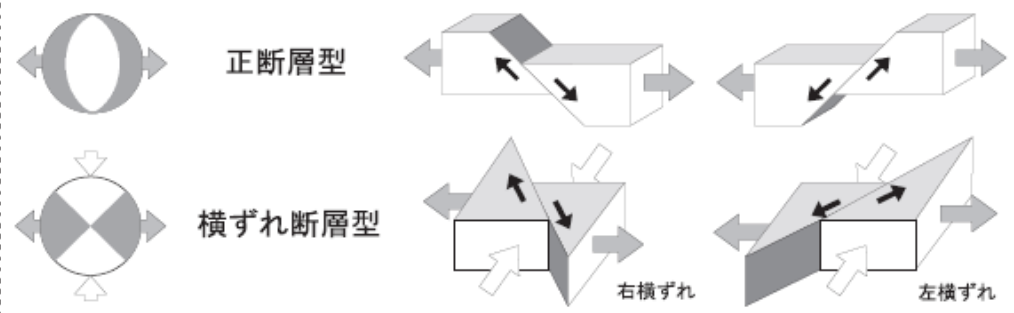
※セントロイドの位置とは、
地震の断層運動を1点で
代表させた場合の位置。

発震機構解 [CMT解] について

圧力軸に注目した場合の例



張力軸に注目した場合の例



⇨⇩⇧⇦ 圧力 (押す力) ⇦⇨⇧⇩ 張力 (引く力) ⇨⇩⇧⇦ ⇨⇩⇧⇦ ⇨⇩⇧⇦ 断層がずれる方向

気象庁作成

各機関のMw

機関名	Mw	深さ (km)
気象庁 (手動解析)	6.7	37
防災科研F-net (自動解析)	6.8	68
防災科研AQUA (自動解析)	6.7	38
USGS	6.8	36
Global CMT	-	-
GEOFON	6.8	34
Geoscope	6.9	31

2025年1月13日23時10分現在

気象庁作成

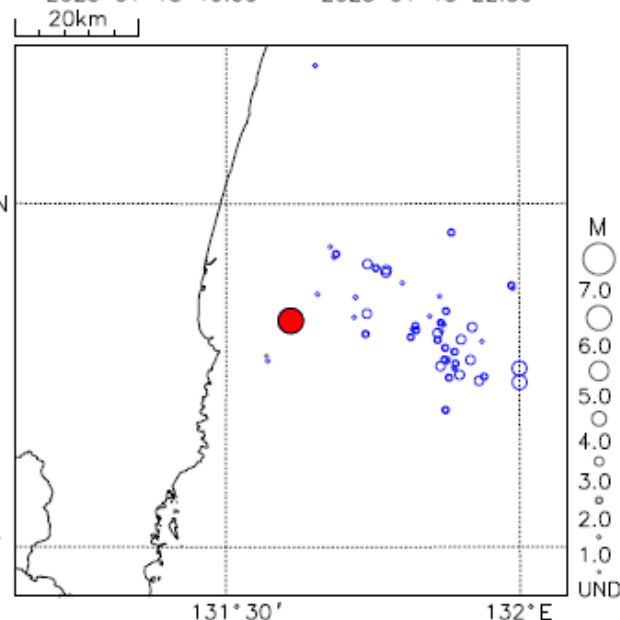
今回の地震活動

震央分布図（詳細図）

震央分布図（広域図）の四角形領域内の震央分布図

深さ0 -- 100km、M 全て

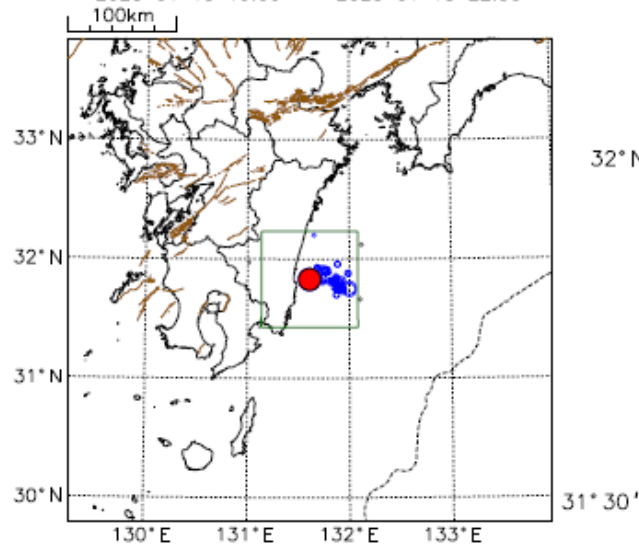
2025 01 13 19:00 -- 2025 01 13 22:50



震央分布図（広域図）

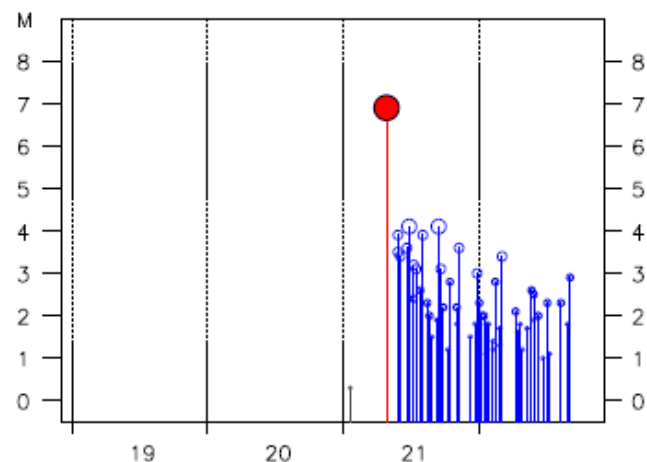
深さ0 -- 100km、M 全て

2025 01 13 19:00 -- 2025 01 13 22:50



震央分布図（詳細図）の地震活動経過図

2025 01 13 19:00 -- 2025 01 13 22:50



(震源の色について) 赤色：今回の地震、青色：今回の地震より後に発生した地震、灰色：今回の地震より前に発生した地震

- 震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
- 震央分布図中の黒色の点線は、海溝軸を示す。

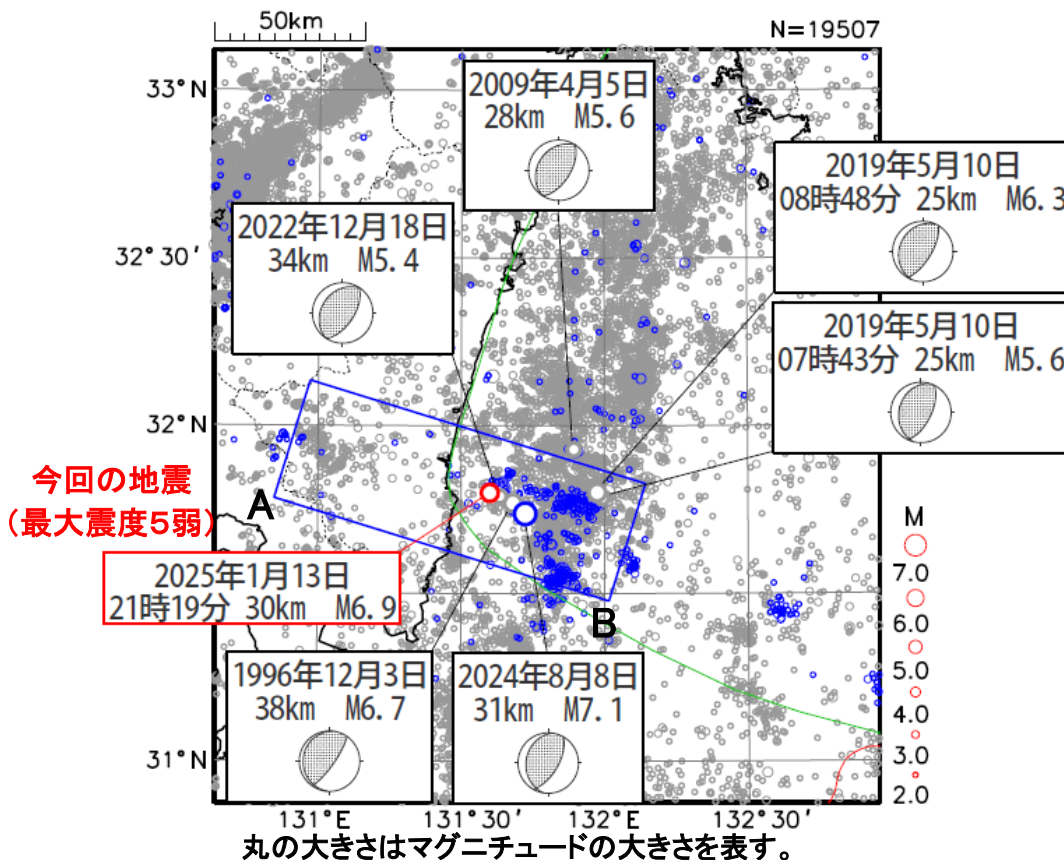
<資料の利用上の留意点>

- 表示している震源は、速報値を含みます。
- 速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、誤差の大きなものが表示されることがあります。
- 個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

令和7年1月13日 日向灘の地震 (発生場所の詳細)

震央分布図

(1994年10月1日～2025年1月13日21時19分、
深さ0～100km、M2.0以上)

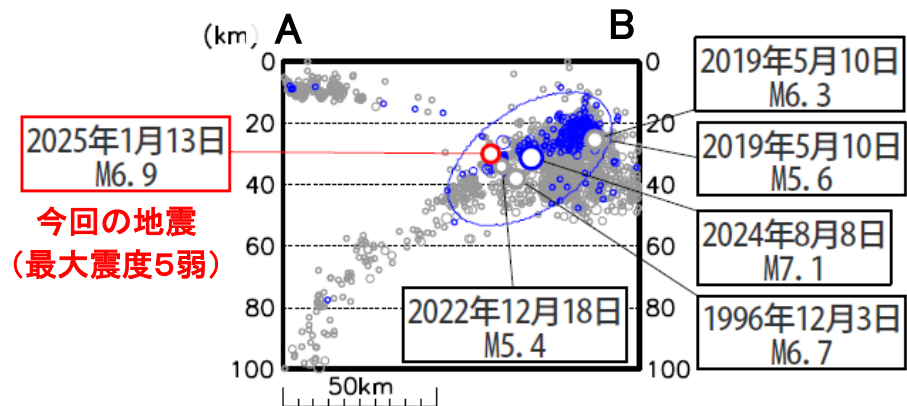


今回の地震
(最大震度5弱)

2024年8月8日以降の地震を青く、今回の地震を赤く表示

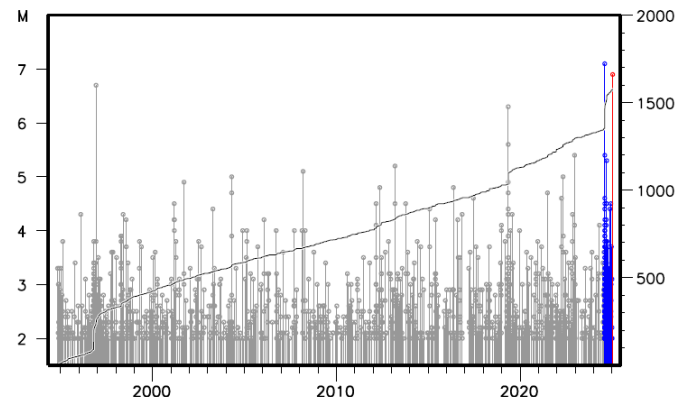
緑色実線は南海トラフ巨大地震の想定震源域を表す

左図の四角形領域内のA-B断面図



縦軸は深さを表し、丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。

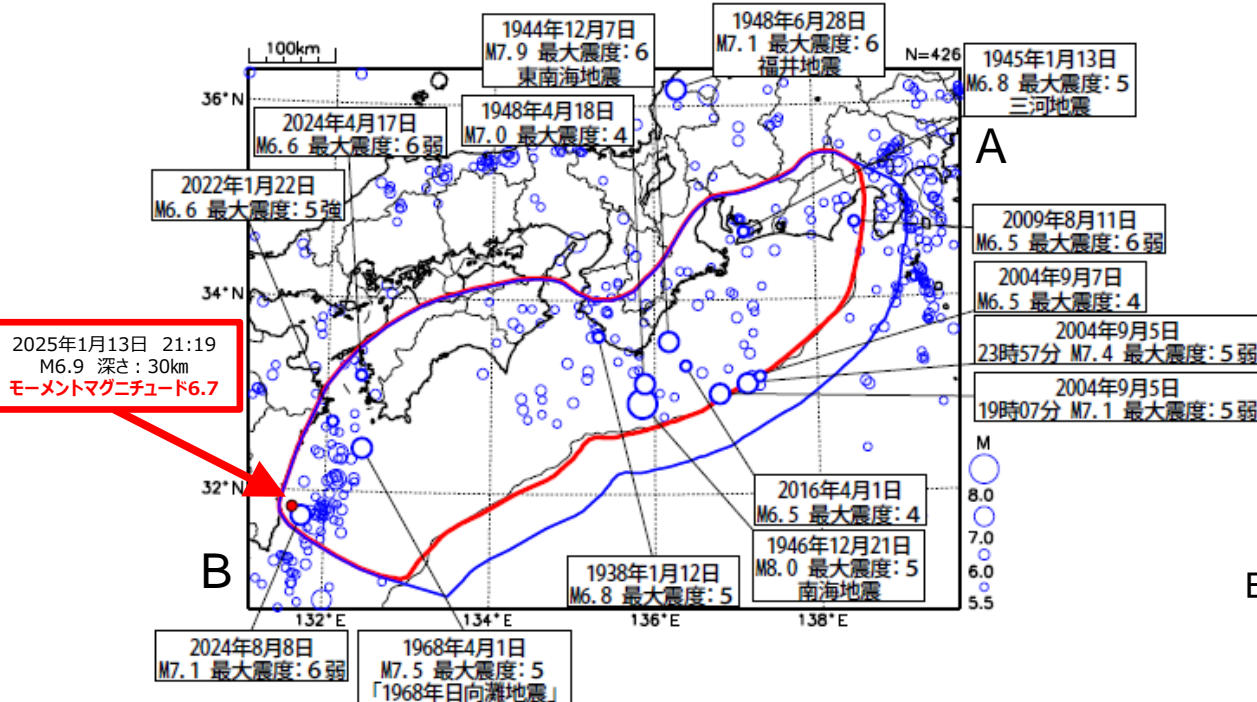
上図の楕円領域内の地震活動経過 および回数積算図



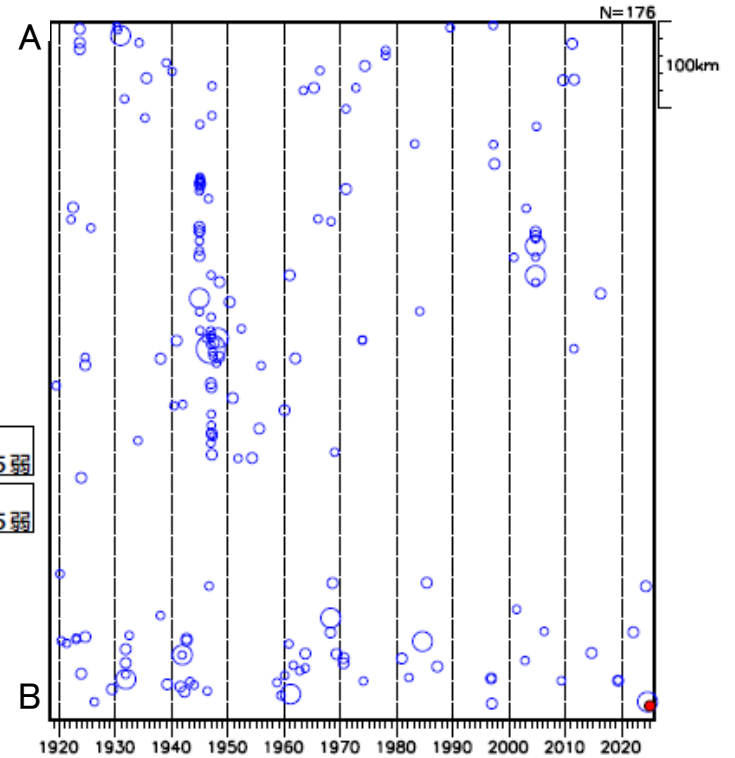
横軸は時間、縦軸は左がマグニチュード、右が地震の積算回数。折れ線は地震の回数を足し上げたものであり、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表す。

南海トラフ沿いの過去の地震活動（1919年以降）

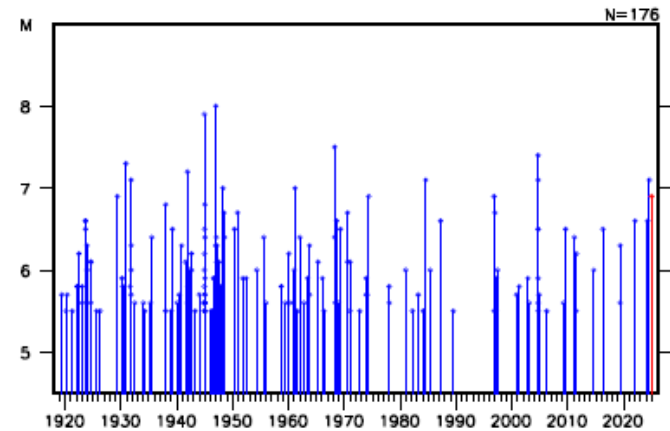
1919年01月01日～ 2025年01月13日23時00分、
深さ0～100km、M5.5以上 震央分布図 今回の地震を赤く表示



監視領域(青線)内の時空間分布図(A-B投影)



監視領域(青線)内の地震活動経過図



赤線は想定震源域、青線は南海トラフ地震臨時情報発表に係る地震活動の監視領域を示します

〔図の説明〕

- ・表示している震源は速報値を含みます
- ・丸の大きさはマグニチュードの大きさを表します (震央分布図)

・以下の地震に吹き出しを付けました

1999年以前

- 想定震源域(日向灘を除く)で発生したM6.8以上の地震
- 想定震源域(日向灘)で発生したM7.5以上の地震
- 図中で1946年南海地震から3年以内に発生したM7.0以上の地震

2000年以前

- 想定震源域で発生したM6.5以上の地震

(時空間分布図)

- ・横軸は時間、縦軸は上図のA-Bの範囲を示します
- ・発生した時刻にマグニチュードの大きさに対応した丸を示します

(地震活動経過図)

- ・横軸は時間、縦軸はマグニチュード、縦棒のついた丸は地震発生時刻とマグニチュードの大きさを表します

南海トラフ地震臨時情報（調査終了）

** 見出し **

今回の地震は南海トラフ地震防災対策推進基本計画で示されたいずれの条件にも該当せず、南海トラフ地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる現象ではありませんでした。ただし、いつ地震が発生してもおかしくないことに留意し、日頃からの地震への備えを確実に実施しておくことが重要です。

** 本文 **

本日（13日）21時19分頃に日向灘を震源とするマグニチュード6.9の地震が発生しました。その後の地震活動は活発な状態が続いています。

気象庁では、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会を臨時に開催し、この地震と南海トラフ地震との関連性について検討しました。

この地震は、西北西・東南東方向に圧力軸をもつ逆断層型で、南海トラフ地震の想定震源域内における陸のプレートとフィリピン海プレートの境界の一部がずれ動いたことにより発生したモーメントマグニチュード6.7の地震と評価されました。モーメントマグニチュード7.0に満たないことから、南海トラフ地震防災対策推進基本計画で示されたいずれの条件にも該当せず、南海トラフ地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる現象ではありませんでした。

ただし、南海トラフ沿いの大規模地震（マグニチュード8から9クラス）は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から既に約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。このため、いつ地震が発生してもおかしくないことに留意し、日頃から地震への備えを確実に実施しておくことが重要です。

気象庁では、引き続き注意深く南海トラフ沿いの地殻活動の推移を監視します。

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるマグニチュードです。気象庁が地震情報等で、お知らせしているマグニチュードとは異なる値になる場合があります。

※評価検討会は、従来の東海地域を対象とした地震防災対策強化地域判定会と一体となって検討を行っています。

** 次回発表予定 **

新たな変化を観測した場合には随時評価検討会を開催し、情報発表します。

** （参考） 南海トラフ地震に関連する情報の種類 **

【南海トラフ地震臨時情報】

情報発表条件：

- 南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
- 観測された異常な現象の調査結果を発表する場合

情報名に付記するキーワード：

- 「調査中」 下記のいずれかにより臨時に「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」を開催する場合
 - ・監視領域内※1でマグニチュード6.8以上の地震※2が発生
 - ・1カ所以上のひずみ計での有意な変化と共に、他の複数の観測点でもそれに関係すると思われる変化が観測され、想定震源域内のプレート境界で通常と異なるゆっくりすべりが発

生している可能性がある場合など、ひずみ計で南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる変化を観測

・その他、想定震源域内のプレート境界の固着状態の変化を示す可能性のある現象が観測される等、南海トラフ地震との関連性の検討が必要と認められる現象を観測

○「巨大地震警戒」 想定震源域内のプレート境界において、モーメントマグニチュード8.0以上の地震が発生したと評価した場合

○「巨大地震注意」

・監視領域内※1において、モーメントマグニチュード7.0以上の地震※2が発生したと評価した場合（巨大地震警戒に該当する場合は除く）

・想定震源域内のプレート境界において、通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合

○「調査終了」（巨大地震警戒）、（巨大地震注意）のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合

※1 南海トラフの想定震源域及び想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲

※2 太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く

【南海トラフ地震関連解説情報】

情報発表条件：

○観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合

○「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合（ただし南海トラフ地震臨時情報を発表する場合を除く）

※すでに必要な防災対応がとられている際は、調査を開始した旨や調査結果を南海トラフ地震関連解説情報で発表する場合があります。